

令和6年4月2日
校長 小林 雅行

I 学校経営にあたって（基本理念）

1 子供にとって最大の環境は、教職員です（学び続ける教師）

子供たちにとって、目の前にいる教職員が、いちばんのお手本です。小・中学校の時に会った先生の影響を受け、教員になった人もいます。教師自身が常に学び続け、力をつけていかなければ、子供たちにより教育はできません。「学びつつある者のみ、人に教える資格あり」を肝に銘じ、「わかる授業」をめざして日々の授業改善をしていくこと。

2 学校は、組織体です（報連相の徹底）

学校教育目標の達成は、校長一人では成し遂げられません。全教職員の心のベクトルが同じ方向を向き、教育活動にあたる必要があります。そのためには、報告・連絡・相談はもとより、一人で悩みを抱え込むことなく、学年・分掌の縦の連携、横の連携を図り、組織で対応できる、風通しのよい職場を作る必要があります。

そのために、

- ① 同じ学年の教員で合わせるところは合わせつつ、そうでないところは各クラスで実践していくなど、学年でしっかりと話し合いながら進めていくこと。
- ② 「こうあるべきである。」「～でなければならない」という意識を捨てること。ベテラン教師になればなるほど、その傾向が強くなり、それが組織の中で露呈すると、組織そのものが停滞します。学年主任は、若手の意見や考えを吸い上げながら学年経営をしていくとともに、若手の教員も、自分の考えや意見をしっかりと述べるのが大切です。

教職員一人ひとりが、仕事にやりがいを感じ、楽しみながら教育活動を行っていくことが、子供たちに、より良い影響を与えることは間違いありません。

3 教育は、信頼関係が大切です（教職員事故根絶を基盤として）

児童、保護者、地域、同僚との信頼関係がなければ、教育は成り立ちません。相手を思いやり、一人ひとりを大切にした言動を心がけること。

教職員の発した言葉や行動は、荒幡小学校教職員全体の言葉や行動となります。自分の言動に責任を持ち、「教育公務員」としての強い自覚と高い倫理観を常に持って、信頼される教職員になること。子供へ指導する際には、独りよがりな指導になっていないか。今の指導は、保護者の前でも堂々で行えるのか意識していくこと。

II 学校経営の方針・計画

1 学校教育目標

ふるさとを愛し、進んで学ぶ子

かしこく（知） なかよく（徳） たくましく（体）

2 目指す児童像 （こんな子供たちを育てます）

○3つのキラリ

ひとみキラリ 笑顔キラリ 汗キラリ

かしこく 能動的に学ぶ子・・・・・・・・・・・・・・・・ひとみキラリ
なかよく 自分のよさを感じ、人のよさを認められる子・・・笑顔キラリ
たくましく 粘り強く心身を鍛える子・・・・・・・・・・・・・・・・汗キラリ

3 目指す学校像 （こんな学校を目指します）

児童一人一人の笑顔がキラリ輝く学校

～一人も取りこぼさない教育の推進～

4 目指す教師像 （こんな教師を目指します）

人間性豊かで、信頼される教職員

- 児童を大切にし、使命感と責任感のある教職員
- 向上心にあふれ、謙虚に学び続ける教職員
- 竹のようにしなやかな思考のもと、誠実に職責を果たす教職員

5 本年度の経営方針

- (1) 学校教育目標の実現を目指す学校経営
- (2) 適切な教育課程の編成・実施・評価・改善
- (3) 全教職員の学校経営への積極的な参加、組織の活性化
- (4) 教職員の資質・能力の向上、健康管理
- (5) 生徒指導・道徳教育・人権教育・特別支援教育等の推進
- (6) 学校保健・学校安全・学校における食育の推進
- (7) 幼・保・小・中、家庭・地域・関係機関との積極的な連携・協力
- (8) 固定概念を覆す、働き方改革の推進

6 本年度の重点・努力点

教職員・保護者・地域が一体となり「調和」のとれた学校教育の推進